

春ノ十一裏

越へこへあれば又とこの世にかへりこぬ

しでの山路へちぞかなしかりける

世中を夢とみるはかなくて

なをおどろかぬわがころかな

とし月をいかて我身へわがみの送へをくりけん

きのふ見し人けふはなき世に

いまだ其期へそのごやきたらざりけん二月も

過て七月に又おもひきりて月のおもし

ろかりしにかくそよみける